

発見!

おごおり遺産

No.37 権現さん祭り

毎年3月15日に行われる「権現さん祭り」。どこで・どのようなことが行われるお祭りか知っていますか。

小郡市と筑前町の境にある、標高130.6メートルの花立山(城山ともいう)。平野の真ん中にたたずむ小ぶりな山は、自然豊かで、その山麓には旧石器時代からの人々の営みの痕跡のほか、古墳(今から1400年ほど前の墓)も多く見つかっています。郷土の詩人・野田宇太郎は「ほつかりと菜種畑に天降りし わがふるさは花立の山」とうたい、季節の花木を愛でるために立ち寄る人や、日課として毎朝登る人など、今でも多くの人に親しまれています。そんな小郡市唯一の山である花立山は、地元では親しみを込めて「権現さん」と呼ばれています。「権現さん祭り」とは、そんな花立山の山頂にある日方神社のお祭りです。そもそもなぜ「権現さん」なのでしょう。

「権現」とは、「日本の神々はさまざまな仏の化身である」という本地垂迹(神仏混交)思想の中で、「化身(仮の姿)」のことを示す言葉などで使われます。その昔、福岡県添田町にある英彦山では「釈迦如来・阿弥陀如来・千手観音菩薩」の権現として「伊弉諾尊・天忍骨尊・伊弉冉尊」をまつっており、「英彦山権現(大権現・三所権現など)」と呼ばれていました。応永30(1422)年、福田美濃守種次が英彦山から勧請(神仏の分霊を移してまつること)して創建したのが、花立山山頂にある日方神社です。「大権現をまつた山」ということで、日方神社を含む花立山を「権現さん」と呼ぶようになりました。

権現さん祭りは、毎年3月15日に行われます。この日、各家庭では裸麦を釜で炒り、引き白でひいて粉にし、砂糖を入れて甘味をつけた「コウバン」と呼ばれるものを作って、権現さんに供えました。人の悪口を言おうとしても、口を動かすと粉が飛び出るので、言わないようにこれを食べるといわれています。

「権現」とは、「日本の神々はさまざまな仏の化身である」という本地垂迹(神仏混交)思想の中で、「化身(仮の姿)」のことを示す言葉などで使われます。その昔、福岡県添田町にある英彦山では「釈迦如来・阿弥陀如来・千手観音菩薩」の権現として「伊弉諾尊・天忍骨尊・伊弉冉尊」をまつっており、「英彦山権現(大権現・三所権現など)」と呼ばれていました。応永30(1422)年、福田美濃守種次が英彦山から勧請(神仏の分霊を移してまつること)して創建したのが、花立山山頂にある日方神社です。「大権現をまつた山」ということで、日方神社を含む花立山を「権現さん」と呼ぶようになりました。



小郡市唯一の山・花立山

権現さんでは、干潟・下鶴・佐野古の神社総代が神事に参列し、山の頂上に祭旗を掲げます。かつては山頂から参道脇とふもとの広場まで露店が並び、子どもたちはみんなこの日を楽しみにしていました。地元住民によると、権現さんの日の午後は、干潟の小学生は家に帰り、お参りに行っていました。親からお小遣いをもらい、お参りし、お金が尽きて帰っている途中で親戚のおじさんなどに会って、またお小遣いをもって参拝する——これを繰り返して1日楽しんでいたそうです。

昭和40年代から昭和50年代ごろにかけて大変賑わっていた権現さん祭りでしたが、今は露店もなく、平日に行われる年もあるため、子ども達の参拝は多くありません。

月日の流れとともに消えていくもの・ことが、昔はこういうものがあつたんだよ」「こんなことが楽しみだったんだよ」「そんな記憶を記録として残していきたいものです。



昨年行われた権現さん祭りの様子

関文化財課文化財係

☎75・7555